

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第27号】2015年4月28日発行

2015年度春 主な派遣予定

- 岩手県大船渡市で開催される
磐石海岸観光まつりへ
今年も課外活動団体を派遣します

2012年岩手県大船渡市と立命館大学の間で締結した「災害復興に向けた連携協力に関する協定」に基づいて、2013年、2014年に引続き今年も「磐石海岸観光まつり」へ学生団体や教職員が現地に赴き、「立命館大学生によるパフォーマンスステージ」や「体験企画」を担当します。

昨年のパフォーマンスステージでは立命館カラーガードサークルLUSTER（ラスター）と体験企画を書道部が実施し、地元のみなさまとの温かい交流を通じて被災地域の今を知り今後の活動意欲を高める機会となりました。

今年も2015年5月2日(土)～6日(水)の派遣日程で、ライフサイエンス研究会、モダンジャズバレエ部のメンバーが現地を訪問し、被災地域の視察や復興状況の学習を行うとともに、地元の方々との交流を行う予定です。

▼昨年の派遣の様子



カラーガードサークル（LUSTER）ステージ企画



書道部による体験企画ブースの様子

- ボランティアバス企画
【第30便】後方支援スタッフ派遣
プロジェクト（第5弾）派遣について

立命館災害復興支援室が2011年12月より実施している学生派遣・ボランティアバス企画「後方支援スタッフ派遣プロジェクト」では、宮城県気仙沼市で、コピーライターの糸井重里氏が「東北に100のツリーハウスをつくろう」と設立した「東北ツリーハウス観光協会」のプロジェクトと連携した活動を実施しています。

▼前回（第4弾派遣）時のツリーハウス



立命館大学が建設に関わってきた「気仙沼・鮎立のツリーハウス」の完成にむけて、5月7日～12日に第5弾の学生派遣を実施し、学生が活動を行う予定です。

派遣期間中の活動の様子は、災害復興支援室facebookで随時レポートする予定です。

【実施概要】

日程：5/7夜京都出発～5/12朝京都着
活動場所：宮城県気仙沼市鮎立（しびたち）地区
派遣人数：学生8名+教職員引率
連携組織：東北ツリーハウス観光協会

▼東北ツリーハウス観光協会WEB



公式サイトURLはこちら→



- いばらきキャンパス開設記念
『いばらき×立命館DAY』で
取り組み紹介展示を行ないます



いばらき×立命館DAY

～出会う、つながる、つくります～
場所：大船渡いばらきキャンパス管理棟
日時：2015年5月7日(日) 10:00～17:00(予定)
主催：立命館大学いばらきキャンパス開設記念委員会
協賛：岩手県立命館大学いばらきキャンパス
お問い合わせ：0196-333-1111

この春に開設された立命館大学いばらきキャンパスでは、5月17日（日）10時～17時（予定）岩倉公園において地域交流フェア『いばらき×立命館DAY』が開催されます。

災害復興支援室ではフェア当日、これまでの活動紹介や、取り組みを実施中の学生による展示を行います。

会場にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

活動レポート

【2014年1月-3月】

- 土曜講座1月講座を開講

阪神・淡路大震災発生から20年目を迎えた2015年1月17日、および24日、31日の土曜日に立命館土曜講座1月「巨大災害にどう向き合うか～阪神・淡路大震災から20年～」を開講、各回大勢の方にお越しいただきました。

＜来場者のコメント＞

・地中で災害が起きて初めて災害を身近に感じ、災害時の行政の対応について興味を持った。講座に参加し広島県や広島市は、阪神淡路大震災や東日本大震災から「何を」を学び、「どうように復興に活かしたか」を調べたかった。(1/17参加者)

・20年間でのボランティアの進化を感じました。行政とボランティアの相違点がよく分った。(1/24参加者)

●3.11追悼企画

「いのちのつどい」を開催

震災発生から5年目を迎え、復興への貢献の思いを新たにするとともに、学園の取組みを共有・学内外に発信する場として追悼企画を開催しました。

【3/8：共催シンポジウムを開催】

福島大学うつくしまふくしま未来支援センターと連携し、京都シンポジウム『ほんとの空が戻る日まで～東日本大震災及び原発事故からの福島の闘い』を開催しました。当日は被災地支援活動経験者やテーマに関心のある一般、学生、高校生など300人以上が来場し、終了時間まで会場は熱気に包まれました。終了後のアンケートでは、福島第一原発の廃炉、子どもの教育環境、風評被害に関する意見が多数寄せられました。

日時：2015年3月8日（日）
12:00～17:20

場所：立命館大学朱雀ホール

内容：

- I部 堀潤氏による基調講演
 - II部 福島大学教員による現状報告
 - III部 立命館・福島大学教員他によるパネルディスカッションテーマ：「震災・原発事故からの福島の闘い」
- 取り組み紹介、写真展示コーナー

▼当日の会場の様子

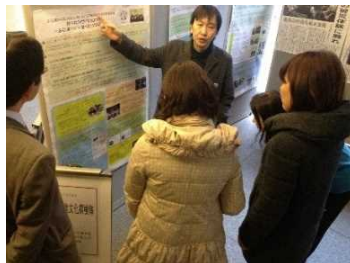


<来場者のコメント>

福島で起きていることが多様で複雑であることを改めて感じた。（中略）今後はもっと多面的・多角的に福島のこと、地元のこと（身近なこと）について考えていきたい。始終メモの手が止まりませんでした。

【3/9-13：パネル展示企画】

3/9（月）～3/13（金）パネル展示企画を朱雀キャンパス1階ロビーにて開催し、キャンパスに来られる多くの方々に見ていただきました。またオープニングでは文学部サトウタツヤ先生によるティーチインを行いました。



【3/10：3.11プレ企画】

3/10（火）18:30より朱雀キャンパス多目的室にて交流企画「3.11プレ企画」を開催。学内外からテーマに関心のある20名が参加し、東北の名物を使った料理やお酒を楽しみながら東北の復興への思いを語り合いました。

【3.11追悼「いのちのつどい」】

3/11（水）14:00～16:00朱雀キャンパス1階において「3.11いのちのつどい」追悼セレモニーと参加者交流を行いました。セレモニーでは、3.11によせる吉田総長のメッセージ代読の後、地震が発生した14:46にあわせて学生代表で福島県いわき市出身の学生が献花し、約60名の参加者と共に黙祷を捧げました。



●APU・RU学生による「福島スタディツアー」実施



▲津波被災地域で献花する学生たち
2/8～11、APU学生（国内学生6名、国際学生2名）とRU学生（4名）が福島の今を知るスタディツアーを合同で企画・実施。福島県庁、仮設住宅への訪問の他、りんご生産者や作物放射線量検査所の訪問を実施、災害時の状況や復興状況の聞き取りの他、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター山崎様の案内で、避難指示区域の飯館村や南相馬市を訪問しました。ツアー後に開催した報告会では「わたしたちがすべきことは、現地で見えた現実を事実を発信し、それを継続していくこと。支援ではなく共存することが必要」と述べ、今後新しいメンバーも迎えながら団体を立ち上げ、学内外で勉強会や福島の情報発信など活動を行なう予定です。

●立命館中学校・高等学校活動報告会を開催



3/14（土）立命館中学・高等学校小ホールにて生徒による実行委員会の主催で「震災復興支援プロジェクト Warm Heart 2015」を開催、宮城県石巻市での支援活動報告と福島からのゲストを招いたトーク・交流企画が開催されました。

<参加生徒のコメント>

「自分の中で昔のことになっていた東北大震災はまだ終わっていない。これから'も'なんだと思い出させてもらいました」

●その他・今後の主な取り組み予定など

○2015年ネパール地震 学生による募金活動について

4/25に発生したネパールでの地震被害を受けて、学生たちがキャンパス内での募金活動に取り組んでいます。活動の詳細を次回お知らせ致します。

○5月17日（日）地域交流フェア『いばらき×立命館DAY』

会場内にて学園がこれまで取り組んできた活動の紹介、学生による活動紹介を行うブースを設置します。

○2015年度附属校・APUを対象とした活動サポート 概要を公開しました

教職員の寄付等を財源とした「復興+R基金」による活動サポート予算について、今年度も実施・申請受付を開始しました。概要をお知りになりたい附属校・APUの担当者の方は、災害復興支援室までお問合せください。

編集後記

震災発生から5年目を迎えた4月、福島県での支援活動を展開する学生団体「そよ風届け隊」の設立メンバーのひとりでもある産業社会学部の西崎芽衣さんが福島県楡葉町で任期付職員としてこの春採用され、今後1年間地域に密着した復興支援の事業を担当していく予定であることが東北のメディアで紹介されました。また、APUでも2月のスタディツアーをきっかけにした支援活動学生団体の設立など、積極的な学生による取り組みが育っています。災害復興支援室では、今後も被災地の皆様とのふれあいを大切に支援活動を応援し続けたいと思っています。（ひ）

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。<公式web <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>>